

ここ長崎は鎖国時代に世界へ開かれた唯一の窓口でした。歴史を紐解けば、日本の西洋医学教育の幕開けは長崎大学医学部医学科と共にあったといえると思います。温暖な気候と温厚で開放的な県民性の当地は、勉学に適した環境だと思えます。

長崎大学では、1年次より専門科目の授業や実習が始まります。入学早々の専門教育は、医学生としての自覚を高めてくれました。私は現在2年生ですが、解剖実習を通し人体構造を学んでいます。4人1組で行っていますが、友の心強さ、ありがたさをも感じます。3年次には、基礎研究を行うリサーチセミナーがあるということで心待ちにしています。4年次よりポリクリも始まっています。4年次よりポリクリも始まっています。

一方、部活動も盛んに行われています。私はバドミントン部ですが、きれいなスマッシュを決めたいと日々思いつつ、先輩、後輩にも恵まれ楽しく活動しています。また、茶道部では和敬清寂の心を学ぶべくお茶をたしなんでいます。歴史の風に吹かれながら、一緒に新しい医学を学びませんか。(山口)



Campus Voice

—在校生、卒業生からの声—



こんにちは。私は長崎大学医学部の2年生で解剖学や生理学など、人体の構造と機能について学ぶ、基礎医学の授業を受けています。また長崎大学医学部は一年生から院外実習や大学病院の実習がカリキュラムの中に盛り込まれているので、低学年から白衣を着て医療の現場を体験し、実際の現場で働く医師に接して医師としての資質について考える機会が多くあります。

また私は長崎大学大学院歯学部総合研究科病理学病理診断科で間質性肺炎について勉強をしています。私とその教室に出入りし始めたころ、私は大学で病理学や組織学を学んでいたわけではなく、光学顕微鏡の操作や組織球の種類すらもわかりませんでした。そんな初学者であっても、熱意のある学生には熱心に医学を教えてくれる優秀な教育者がいるのも魅力の一つです。その研究室では3年生で行われるリサーチセミナーを終えて、研究医コースでなくても英語で論文を書いて海外の学会で発表した先輩方も数多くいらっしゃいます。そんな長崎大学と一緒に医学を学びませんか？(佐藤)

「こんにちは。私は長崎大学医学部を卒業し、現在長崎大学病院で初期研修医として働いています。長崎大学医学部は日本の医学校の中で最も古い歴史を誇ります。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら他の職業を選ぶがよい」という開設の祖であるボンベの言葉は現在に至るまで脈々と受け継がれています。勉学に励む環境として申し分なく、知識と経験に長けた熟練の先生方にご教授頂き、自らを律することができる。」

長崎大学医学部は部活動が充実しているのも特徴です。運動部では日本全国の医学科の中でも屈指の強さを誇るどころもあり、かけがえのない経験を得ることができます。

長崎という町は立体的、多角的な港町であり、非常に様々な方面に開かれていて無限の可能性を秘めています。皆様の才能を開花させるにはうってつけの舞台ではないでしょうか。(赤城)

長崎大学医学部開学の祖、ボンベ・ファン・メールデルフォールトは1857年、この長崎で日本の近代西洋医学教育を創立しました。その時のボンベの精神は、基本理念として現代の長崎大学医学部にも脈々と受け継がれています。私は、学生時代として現代の長崎大学医学部で過ごし、その誇りを胸に医師としての道を歩みだしたところです。現在、長崎大学病院で初期研修医としてとても充実した毎日を送っています。

長崎大学医学部の大きな特長だと私が思うのは、多くの海外拠点と海外協定校があり、世界と強いつながりがあるということです。リサーチセミナーと呼ばれる基礎研究や高学年での臨床実習では、日本から離れて様々な場所で学ぶチャンスがあります。みなさんもグローバルな視点をもった医師への第一歩をこの長崎大学で踏み出してみませんか。(井上)

長崎大学医学部・熱帯医学研究所の海外拠点と主な海外協定校 —世界とつながる長崎大学医学部医学科—



オランダ・ライデン大学と街並み



ドイツ・ビュルツブルグ大学と街並み



ケニア・熱研拠点



ミシガン州立大学



ペラルーシ・原研拠点



韓国・ハーリム大学 韓国・プサン大学



ベトナム・熱研拠点

アクセス

長崎空港から ■バス
 「長崎空港5番のりば」(長崎新地・長崎駅前経由) → 「長崎駅前」下車 → JR長崎駅からへ
 「長崎空港4番のりば」(昭和町・浦上経由) → 「浦上駅前」下車 → JR浦上駅からへ

JR長崎駅から ■路面電車
 「長崎駅前」(赤迫行き) → 「浜口町」下車 → 徒歩 → 長崎大学医学部
 ■長崎バス (8番系統下大橋行き 医学部経由) → 「医学部前」下車 → 長崎大学医学部

JR浦上駅から ■路面電車
 「浦上駅前」(赤迫行き) → 「浜口町」下車 → 徒歩 → 長崎大学医学部
 ■長崎バス (8番系統下大橋行き 医学部経由) → 「医学部前」下車 → 長崎大学医学部



●医学部についてのお問い合わせは
長崎大学医学部医学科 学務係
 〒852-8523 長崎市坂本1-12-4
TEL 095-819-7010
<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/>



長崎大学

医学部医学科



入学案内

2016



Nagasaki University School of Medicine

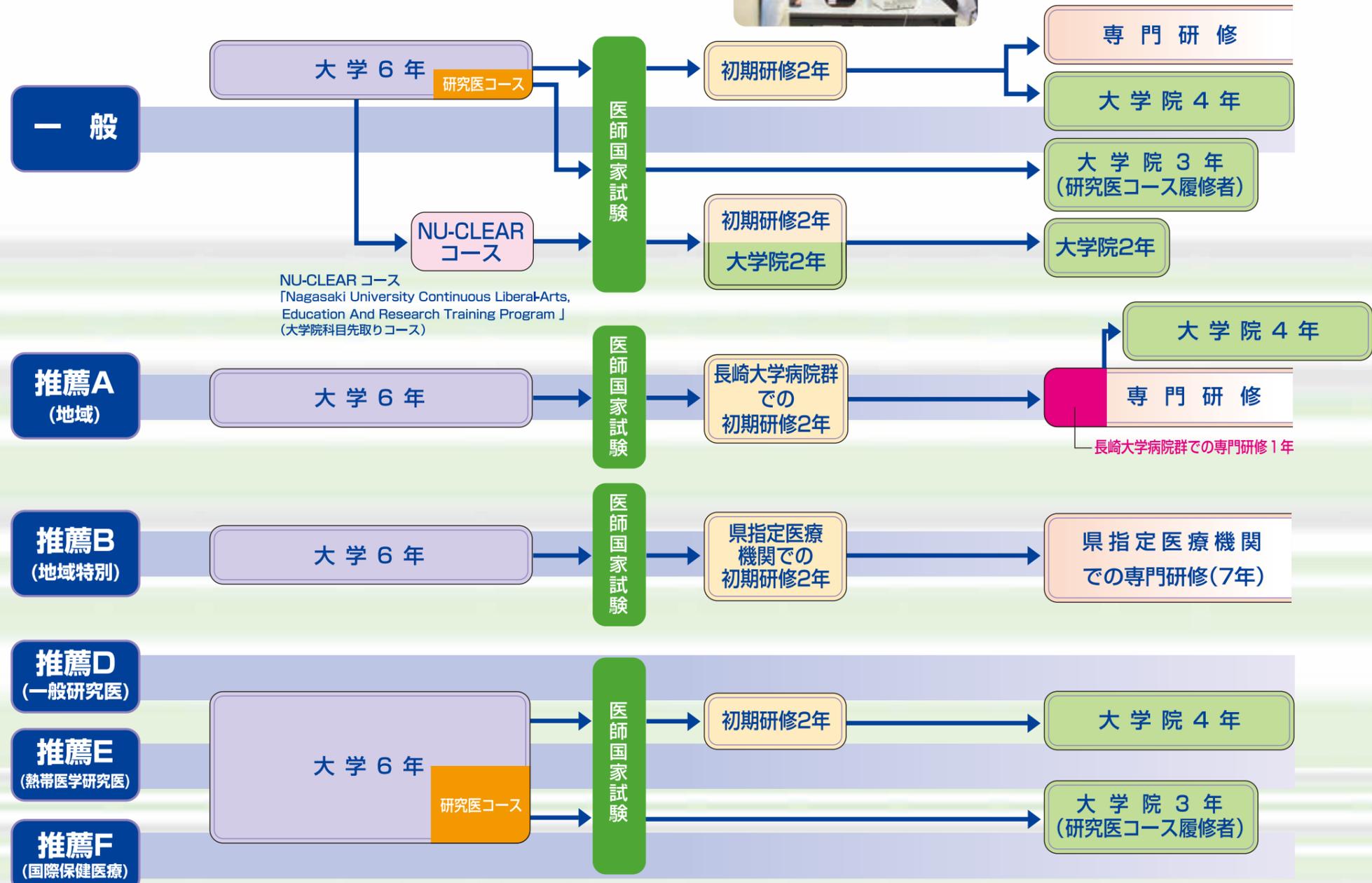


ボンベの言葉

医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。



入学から卒業、大学院進学まで



※すべてのコースで医師国家試験の受験ができます。

大学6年カリキュラム

- 教養教育
- 入門科目
- 形態・機能・代謝学
- 病態解析医学
- 疾患制御医学
- 社会医学



医師国家試験年別合格率

	長崎大学新卒者合格率 (%)	全国平均合格率 (%)
平成22年(104回)	92.5	92.8
平成23年(105回)	95.6	92.6
平成24年(106回)	89.3	93.9
平成25年(107回)	90.5	93.1
平成26年(108回)	96.9	93.9
平成27年(109回)	92.9	94.8



卒業後の進路

卒業生の多くは臨床医になります。義務である2年間の初期研修、次いで専門研修を経て一人前の医師になるトレーニングを積みます。その他、基礎研究医(大学や研究所)、行政職に進む人もいます。長崎大学医学部医学科から政治家も輩出しています。



入学料・授業料・奨学金制度

- 入学料.....282,000円
- 授業料(年額).....535,800円

※1 入学料については、免除(全額又は半額)及び徴収猶予の制度がある。
 ※2 授業料については、免除(全額又は半額)の制度がある。
 ※3 入学料及び授業料は改定される可能性がある。

■奨学金制度

①日本学生支援機構の奨学金

	第一種奨学金(無利子)	第二種奨学金(有利子)
自宅通学	45,000円/30,000円 いずれかを選択	30,000円 50,000円 80,000円 100,000円 120,000円 上記金額の中から選択
自宅外通学	51,000円/30,000円 いずれかを選択	

②長崎県医学修学資金貸与制度

(1) 貸与金額 平成27年度入学者:6年間の貸与総額(予定) 9,336,800円

	入学料	授業料	図書費	生活費	年間貸与額
1年次	282,000円	535,800円	—	840,000円 (※1)	1,657,800円
2年次	—	535,800円	—	840,000円 (※1)	1,375,800円
3~6年次	—	535,800円	200,000円	840,000円 (※1)	1,575,800円

- (2) 貸与利率 年14.5% (※1)70,000円×12月
- (3) 返還免除
卒業後、「履行すべき義務」を終えた場合に元金及び利息の返還が免除される。
- (4) 履行すべき義務
貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間(うち、離島・へき地に2分の1以上の期間)、知事が指定する医療機関等への勤務が必要。

③各種奨学金

地方自治体、民間企業及びその他団体等が設けている奨学金制度がある。

■諸納付金等(入学年度)

	種別	金額	備考
1	学生教育研究災害障害保険	4,800円	6年間
2	学研災付帯賠償責任保険(付帯賠償)	3,000円	//
3	医学部教育後援会費	60,000円	//
4	医学部学友会費	15,000円	//
5	長崎医学同窓会費	25,000円	//
	合計	107,800円	

■その他の納付金等

- 各種予防接種費 約20,000円
- 共用試験受験料 25,000円(27年度)
- 医師国家試験受験手数料 15,300円(26年度)
- 6年次国家試験対策(模試・参考書等) 約100,000円

各入学枠の説明

一般枠

医学・医療分野に対して熱意と高い意志を持ち、この分野の職業に生涯にわたり従事するという明確な目的意識がある人を求めます。

研究に興味のある学生は在学中から「Nagasaki University Continuous Liberal-Arts, Education And Research Training Program」(NU-CLEARコース)を選択し、学部在学中から大学院で履修する共通科目を先取りで受講できます。卒業後初期研修を受けながら研究を続けることもできます。

地域枠 (推薦A,B)

地域医療に興味があり、将来長崎県の地域医療を支えていくという強い意志を持つ人を求めます。長崎県医学修学資金の貸与を受けない「推薦入試A」と受ける「推薦入試B」からなります。

1～3年次に長崎県の医療についての理解を深め、離島・へき地医療に重要なプライマリケア・小児科・産婦人科・救急医療などに関する広い知識を習得する「地域医療ゼミ」を受講します。

卒業後は、「推薦入試A」では長崎大学病院群で3年間研修することが、「推薦入試B」では長崎県が指定する医療機関で9年間研修することが条件となります。

一般 研究医枠 (推薦D)

基礎研究者として医学の発展に携わるという目標とそれを貫く強い意志を有する人を求めています。

1～3年次に医学研究に必要な生化学、分子生物学、組織学などの基礎知識の習得を目標に「プレリサーチセミナー」を受講し、配属研究室(基礎医学分野)で研究活動を行い、年に1回の発表会を行います。さらに、4～6年次には、研究医コースに進み、「アドバンストリサーチセミナー」を受講し、3年生時までに設定した研究テーマをさらに発展させ、配属研究室にて将来の研究医に必要な基礎を築きます。年間到達目標を設定し、学会発表・論文発表を目指します。

卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(医学系基礎研究分野)に進学することが条件となります。初期研修後の大学院進学も可能です。

熱帯医学 研究医枠 (推薦E)

熱帯医学分野で「基礎」研究医を目指す人を求めています。このコースでは、熱帯病や種々の感染症を撲滅させるための「基礎」研究医を育成するものです。単に熱帯地域や発展途上国での医療活動に興味のある学生のためのコースではありません。1～3年次に熱帯医学研究に必要な生化学、分子生物学、組織学などの基礎知識の習得を目標に「プレリサーチセミナー」を受講し、配属研究室(基礎医学分野)で研究活動を行い、年に1回の発表会を行います。

さらに、4～6年次には、「アドバンストリサーチセミナー」を受講し、3年生時までに設定した研究テーマをさらに発展させ、配属研究室にて将来の熱帯医学研究医に必要な基礎を築きます。年間到達目標を設定し、学会発表・論文発表を目指します。

卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(医学系基礎研究分野)に進学することが条件となります。初期研修後の大学院進学も可能です。

国際保健 医療枠 (推薦F)

国際保健医療、特に放射線健康科学分野で活躍したいという目標を有する人を求めています。このコースでは、国際保健医療・放射線健康科学分野で活躍する人材、具体的にはWHO(世界保健機関)やIAEA(国際原子力機関)といった国際機関や、厚生労働省のような行政機関、さらには大学のような研究機関で国際保健、国際医療に携わる人材を輩出していきたいと考えています。

1～3年次に国際医療に関する広い知識を習得しながら、国外における臨床実習・医療を行えるよう医学英語を習熟する「医ゼミ・医学英語」を受講します。

卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(医学系基礎研究分野)に進学することが条件となります。初期研修後の大学院進学も可能です。

医学科教育の特色

医学科教育の特色

通常の基礎～臨床の講義に加えて、当医学科では以下のようなユニークな講義を行っています。

リサーチセミナー

医師として、日々患者さんを診察し、治療することは重要ですが、医学の進歩のためには、未知の疾患の病因を解明したり、新たな治療法を開発したりすることもとても重要なことです。そこで、長崎大学医学部医学科では、研究者マインドを身につけてもらうために、学生は3年次に2～3ヶ月間、希望する基礎医学研究室に配属され、教員からのマンツーマンの指導を受けます。その間、毎日朝から夕方まで、研究に没頭します。教員指導のもと論文を読んで、現在の医学の問題を探し出し、問題に対する仮説を立て、そして綿密な実験計画を立てて実験を行うことによってその仮説を検証するというものです。また学会などでのプレゼンテーション能力を養うために、リサーチセミナー終了後に、2日間かけて研究成果発表会を行います。全ての演題は厳正に審査され、優秀なプレゼンテーションをした学生は表彰を受けます。さらにリサーチセミナー終了後もその研究室に通い、卒業前に英語で論文を書く学生もいます。

国際学術交流

医学科では、グローバルなセンスを身に付けた医療人育成を目的として、海外の大学で基礎医学研究及び臨床医学研修に従事出来るプログラムを提供しています。母国を離れて外国で医学を学ぶ経験は大変貴重なものであり、必ずや人間形成の上にも役立つものです。開学の祖、ポンベゆかりのライデン大学(オランダ)やシーボルトの出身校であるヴュルツブルグ大学(ドイツ)、放射線の健康影響についての解明で共同研究中のベラルーシ医科大学(ベラルーシ)、そして韓国のハーリム大学・プサン大学が現在の派遣先となっています。海外基礎研究に関しては3年次に開講されるリサーチセミナー時に、海外臨床研修は6年次前期の高次臨床実習時に希望する海外大学で実施されることになっています。また他にもポルトガル、ブラジル、中国、モンゴル、東南アジア諸国等々39カ国、184大学・機関と学術交流協定等を結んでおり、学術交流協定文書の内容によっては適宜交流可能となっています。

離島・へき地医療

長崎県は全国で最も多くの離島を有しており、54の有人離島に県総人口の9.4%にあたる約13万4千人の住民が暮らしています(平成22年国勢調査)。長崎大学医学部医学科では、こうした離島を教育フィールドとして、全国でも例のない実践的な地域医療教育に力を入れています。まず、主に地域枠入学生を対象として、1年生の時から離島での早期体験実習を行っています。5年生では、全員が上五島、下五島、対馬、壱岐のいずれかに1週間滞在して「離島医療・保健実習」を行います。離島の病院や診療所での臨床実習はもちろん、漁船に乗って小離島に渡る出張診療に同行することもありますし、緊迫した急患のヘリコプター搬送を体験することもあります。地域保健実習では、地域住民の健康を保持するための取組について学び、実際に健診等の保健活動に参加します。さらに、希望者は6年次に、離島の病院でハイレベルな臨床実習を4週間行うことができます。

英語教育

医師は臨床医でも研究医でもインターナショナルでなければいけません。長崎大学医学部医学科では専任のネイティブスピーカーによる医学英語を行っています。外国人を診察でき、国際学会で英語で発表・議論できる医師・研究者を育てます。



大学院医歯薬学総合研究科

医学は近年急速に進歩しましたが、病気の原因や治療法が明らかになった疾患はまだ一部に過ぎません。人間の体の仕組みや病気については今でも未解明のことが多く、これらの問題を解決し医学の進歩を支える医学研究が欠かせません。医学部医学科卒業生の多くは、医学研究者や高度専門医療人の道を目指して、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科に進学します。本大学院は、医学、歯学、薬学、保健学の4分野を統合した4年制（医学系の場合）医療系総合大学院で、医学科卒業生は医療科学、新興感染症病態制御学系、放射線医療科学の専攻課程に進学します。大学院在学中は、柔軟なカリキュラムのもとで各人の目指す研究に没頭し、医学研究のトレーニングを積むと共に研究者としての第一歩を踏み出します。修了後は博士（医学）の称号を得て、一人前の研究者として世界で活躍する医療人を目指します。高度な研究能力と教育能力を備えた大学人の後継者育成も大学院の重要な使命です。本大学院は、世界で活躍する優れた医学研究者、高度専門医療人を多く輩出しています。なお、一般研究医枠、熱帯医学研究医枠及び国際保健医療枠の学生は、本大学院への進学が必須です。



原爆後障害医療研究所

原爆後障害医療研究所（以下、原研）は、原爆被爆者の慢性障害（後障害）の治療や発症予防、放射線の人体への影響に関する総合的基礎研究施設として昭和37年に設置されました。以後、被爆者の治療・研究のみでなく、チェルノブイリ原発事故後や旧ソ連の核実験場であったカザフスタン共和国セミパラチンスク周辺での放射線障害の研究を各種国際機関と共に進めてきました。さらにごく最近では福島原発事故後の放射線健康リスク管理で中心的な役割を果たしています。原研は過去10年間文部科学省から21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」とグローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」に採択され、放射線研究の国際的拠点として認められています。2012年に設立50周年を迎えましたが、今後も被爆地長崎が被ばく医療の世界的拠点となるべく医療・医学研究を展開していきます。

熱帯医学研究所

人類は古くから感染症の脅威にさらされてきました。医療技術の発達した現代でも、エイズやマラリアなどいまだに克服されていない感染症は多くありますし、新たなウイルスも日々出現しています。また地球温暖化や交通手段の高速化などにより一定の地域で起きた感染症があつという間に世界中に広がってしまいます。長崎大学熱帯医学研究所（熱研）は、熱帯地域を中心に流行する感染症の問題に取り組み、薬やワクチンの開発だけでなく、環境問題や貧困問題などの原因を根本から考えて統合的な戦略を打ち出し、人々が助け合いながら感染症を克服する社会を実現することを目的としています。感染症が発生流行する現場での臨床疫学研究活動と将来の研究を担う優秀な人材の育成の施設として長崎大学アジア・アフリカ海外感染症研究拠点を2006年ベトナムとケニアにも開設しました。研究員が常駐し、現地の研究者と日夜研究を繰り返しています。熱帯医学に興味のある学生さんは気軽に熱研に訪ねて来てください。



先導生命科学研究支援センター

長崎大学先導生命科学研究支援センターは、動物実験、放射性同位元素を使った実験、分子生物学実験などの研究を支援しています。医学部、医歯薬学総合研究科等を含めた長崎大学の生物学実験の重要な基盤施設としての役割を担い、大学院の学生諸君や大学病院の若手医師が自由な発想で提案した研究を推進できるような環境を提供しています。他大学にまさる設備を整えiPS細胞実験、遺伝子改変マウス実験、遺伝子研究、DNA組換え体実験、タンパク質機能解析、放射性同位元素を使った画像解析などの医学生物学、医科学に必要なほとんど全ての研究が可能な施設となっています。学内の教育研究共同利用施設ということで、医学部の学生諸君とは繋がりが少ないかもしれませんが、教員は医学部教育も担当しています。医学部入学から大学病院、医歯薬学総合研究科と進んでいく皆さんの将来を支援する研究支援センターです。皆さんが長崎大学医学部学生となって当施設を利用して活躍できる日を楽しみにお待ちしております。



長崎大学病院は、あなたの夢を応援します！

あなたが、ドクターになるためには、まず、長崎大学医学部医学科へ入学できるように頑張って勉強しましょう！

次に、医学部医学科で6年間勉強し卒業となりますが、すぐには一人前のドクターにはなれません。まず、幅広い病気に対応できるようになるため、2年間の初期研修が必要となります。多くの場合、この間に自分の希望の専門分野を決めます。そして、後期研修さらには専門医になるための研修を積んで、医学部卒業後8～10年後には一人前の医師（ドクター）と呼ばれるようになります。この間、医学博士となるための研究を行うことも可能です。

長崎大学病院には、若い医師を育てる医師（指導医）が沢山います。そして、人材を育成する専門部署である医療教育開発センターがひとりひとりをサポートしています。長崎大学病院の初期、後期、専門医研修システムは非常に優れており、多くの優れた医師を輩出しています。特に専門医教育に関しては文部科学省より全国トップ5の高い評価を受けています。

長崎大学病院で研修を終えた後は、様々なエキスパートの道へ進むことができます（下図）。医学研究者、大学病院や基幹病院で専門的医療を行うスペシャリスト、そして地域医療を支える開業、勤務医などです。このように、医師として活躍できる領域は幅広く、それぞれが大切な役割を担っています。

医師を目指すあなたと、いつの日か、長崎大学病院で一緒に働く日を楽しみにしています！

